

学会企画シンポジウム 7

学校不適應・過剰適應の教育心理学

——不登校の未然防止を目指して——

- 企画・話題提供：高橋雄介（京都大学）
企画・指定討論：伊藤美奈子（奈良女子大学）
企画・司会：西山久子（福岡教育大学）
話題提供：石津憲一郎（富山大学）
過剰適應に関連した子どもの苦戦とその支援
話題提供：清水 恵井（福岡市立舞鶴中学校）
多様な不登校傾向の生徒への個に応じた対応の組織化
話題提供：関 和浩井（久留米市教育委員会）
不登校予防の視点を含めた校務支援システム
話題提供：鈴木美樹江（愛知教育大学）・高橋雄介（京都大学）
学校不適應の早期検知のための会津美里町の取り組み
指定討論：新井 肇（関西外国語大学）

企画趣旨：

子どもたちが日常的に生活を送る場所は、多くの場合、学校であり、学級であるが、文部科学省（2023）によれば、小中学校における不登校児童生徒数は前年度比で20%以上増加し、約30万人となった。子どもたち自身の意思で自由に選択できるわけではない学校や学級は、彼らにとって果たして適切な生活環境となっているのかどうか問われている。子どもたちが学校に行きたくない感じがしてしまうとき、それはどのような時、どのような要因で、どのようなことが起こっているのか。そして、子どもが自分自身を抑制し、周囲の環境に必要以上に合わせようとした結果生じ得る過剰適應もまた問題である。学校不適應・過剰適應を呈することのリスク要因とそれに陥らないようにするための保護要因にはどのようなことが考えられるか。本シンポジウムでは、教育心理学の観点から、学校・学級という場所が子どもたちにとって居心地のよい（悪くない）場所・環境となるためには、どのようなことが求められるのかについて知見を交換し、学校不適應・過剰適應の背景にある要因やそれを防ぐための手立てについて、理論と実践の両面から探求し、より良い教育環境の構築に向けて議論を行う。